

大月町 事前復興 まちづくり かわら版

周防形

第2号

【地区としての復興の方向性】

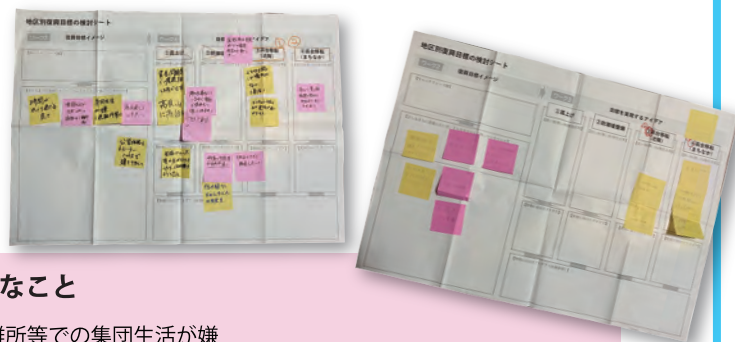
- ・復興後も地域のつながりをのこしたい
- ・時間がゆっくり過ぎる良さを残したい
- ・畑は再開したい
- ・海を使った仕事、漁を再開したい
- ・海は戻していきたい

- ・公営住宅をトレーラーハウスで建てて欲しい
- ・戻るには仕事が必要（加工場など）

昨年度に引き続き、令和7年度
第2回ワークショップが開催されました。

2025年7月4日（金）18:30～20:30、周防形集会所にて事前復興まちづくり計画に向けた地区ワークショップが開催されました。

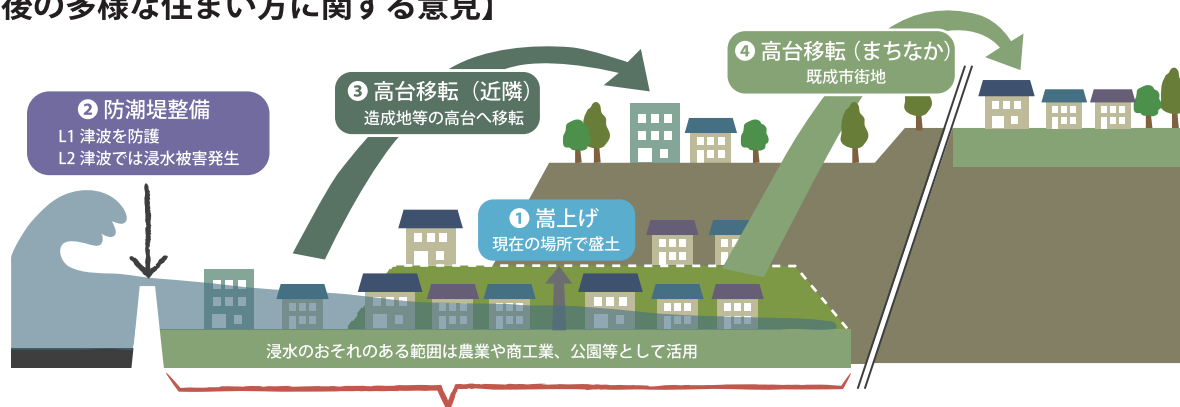
第2回地区ワークショップでは、「南海トラフ巨大地震が発生した場合」を想像しながら、地区としての復興の方向性や、被災後の多様な住まい方に関する意見交換を行いました。



心配なこと

- ・避難所等での集団生活が嫌
- ・資金問題等で一度避難した先で生活しよう
- ・家を建てる財力がないと思うので、公営住宅を建てて欲しい
- ・人口も減ってきているので四万十市に一極集中が拡大化しよう

【被災後の多様な住まい方に関する意見】



居住の制限

浸水のおそれのある区域は居住の制限を検討

※範囲は L1 対応の堤防整備等を踏まえて津波シミュレーションの結果を踏まえて設定

① 嵩上げ

- ・海の仕事をしているので海辺に住みたい
- ・できれば戻ってきたい

② 防潮堤整備

- ・防潮堤の整備をしたい

住み続けるためにサービスの充実を

- ・生協やスーパー等の店ができれば、住み続けようと思う
- ・移動の手段等があれば良い

③ 高台移転（近隣）

- ・高見山に高台移転
- ・エコキャンプ場付近は建物が建てやすそう
- ・山を切り開くしか場所がない

- ・周防形に生業があるが、移転先から仕事に通うのは仕方がない

④ 高台移転（まちなか）

- ・歩いて買い物、病院に行けるまちなかに行くのもあり
- ・移動するなら内陸部の方が現実的
- ↓
- ・どうせ移動するなら弘見がいいな

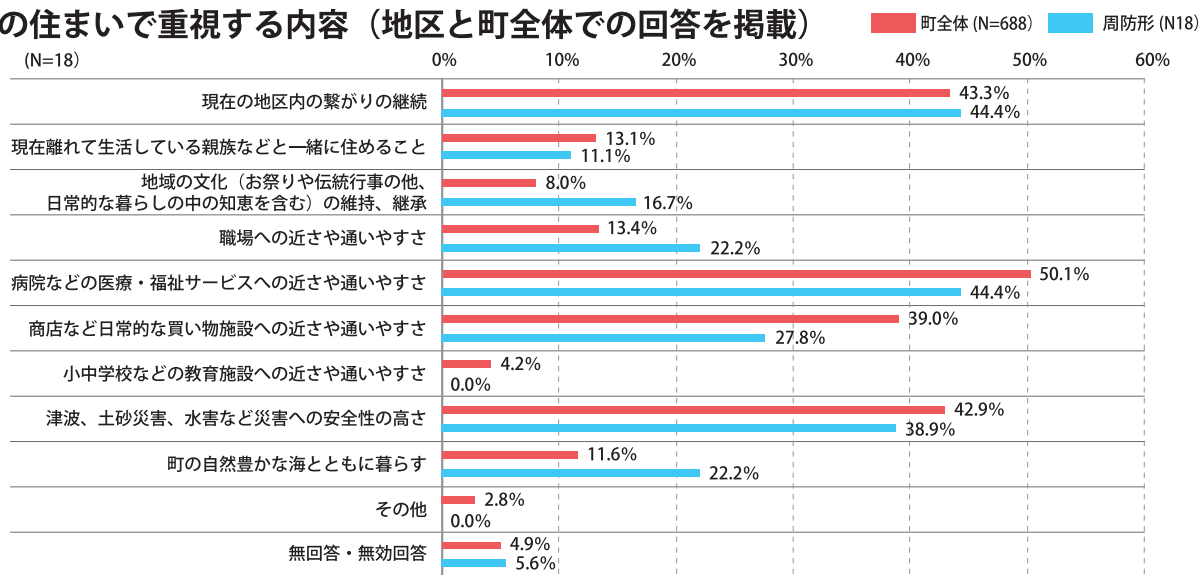
第1希望

第2希望

大月町事前復興アンケート調査を実施しました。ご協力ありがとうございました！

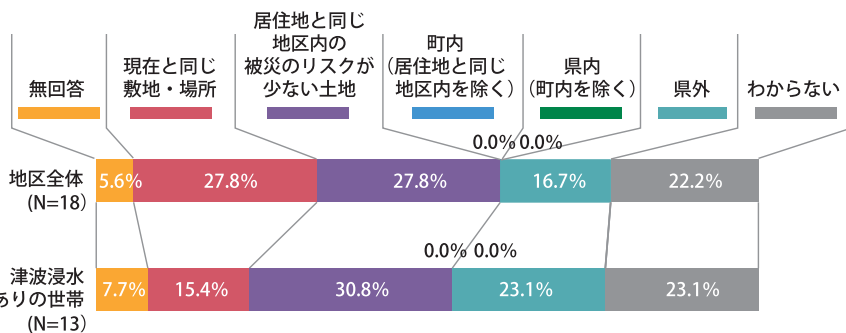
2025 年 8 月 25 日までの2週間、全町民の方を対象に、事前復興まちづくりに関するアンケート調査を実施しました。一部ではありますが、被災後の住まい方に関する質問を中心に地区の回答結果について、共有させていただきます。

●被災後の住まいで重視する内容（地区と町全体での回答を掲載）



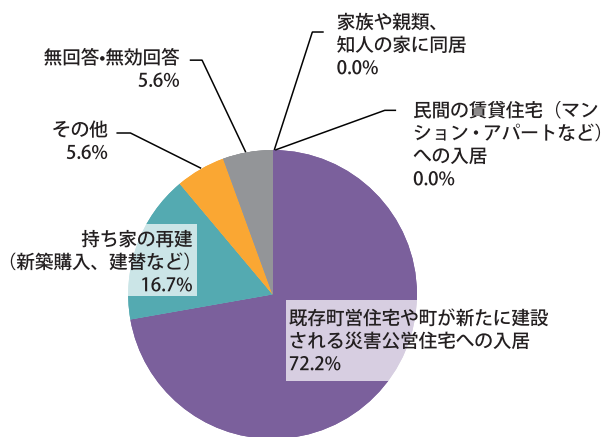
●被災後の住まいで重視する内容について、大月町全体では「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 50.1% と最も多く、次いで「現在の地区内の繋がりの継続」が 43.3% となった。周防形地区では「現在の地区内の繋がりの継続」と「病院などの医療・福祉サービスへの近さや通いやすさ」が 44.4% と最も多く、次いで「津波、土砂災害、水害など災害への安全性の高さ」の 38.9% となった。

●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所



●被災後、生活を再建する際に望ましい住まいの場所については、周防形全体では「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」と「現在と同じ敷地・場所」が 27.8% と最も多く、次いで「わからない」が 22.2% となった。津波浸水の予想される世帯では「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」が 30.8% と最も多く、次いで「県外」が 23.1% となった。いずれも「町内 (居住地と同じ地区内を除く)」と「県内 (町内を除く)」は 0% となった。

●復興の際の住まいの形態 (N=18)



●復興の際の住まいの形態については、「既存町営住宅や町が新たに建設される災害公営住宅への入居」が 72.2% と最も高く、次いで「持ち家の再建」16.7% となっている。地区全体では生活を再建する際に望ましい住まいの場所として「居住地と同じ地区内の被災のリスクが少ない土地」や「現在と同じ敷地・場所」の割合が高いため、新たに公営住宅を建設するには周防形地区内への建設が望まれることが予想される。